

作成日 : 2021/2/18
改訂日 : 2024/6/26

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品名称 : PH 調整剤ダウん
供給者の会社名称 : O A T アグリオ株式会社
住所 : 東京都千代田区神田小川町 1-3-1 NBF 小川町ビルディング 8 階
担当部署 : 品質保証室
電話 : 088(684)0220
電子メールアドレス : sds_info@oat-agrio.co.jp
緊急連絡先電話番号 : 03(5283)0251 (本社)
使用上の制限 : 水耕栽培用培養液の pH 調整剤
整理番号 (SDS No.) : OAT20033α1-5

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性	区分 1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
生殖毒性	区分 2
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (呼吸器系)、区分 2 (血液)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (血液、呼吸器系、歯)

*上記で記載がない危険有害性は、分類対象外、区分に該当しない、または分類できない

GHS ラベル要素

絵表示

注意喚起語
危険有害性情報

危険

H314	重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
H361	生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
H370	呼吸器系の障害
H371	血液の障害のおそれ
H373	長期にわたる、又は反復ばく露による血液、呼吸器系、歯の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260)
取扱い後手をよく洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。(P270)
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)

【応急措置】

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。(P301+P330+P331)
皮膚 (又は髪) に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。(P303+P361+P353)
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。(P308+P311)
 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313)
 直ちに医師に連絡すること。(P310)
 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。(P363)

【保管】

施錠して保管すること。(P405)

【廃棄】

内容物／容器は知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する（地方公共団体が処理を行っている場合には、地方公共団体に委託する）こと。(P501)

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名 : pH 調整剤 (下降用)

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化審法番号	安衛法番号
非公開	非公開	非公開	非公開	非公開

各法令通知対象に該当する成分情報については『15. 適用法令』に記載。

成分の含有量については営業上の秘密に該当します。

事業場におけるリスクアセスメントの実施に必要な場合は別途お問い合わせ下さい。

4. 応急措置

吸入した場合

空気の清浄な場所に移動させ、必要があれば医師の診察を受ける。
 必要があれば酸素吸入を行う。

皮膚に付着した場合

可能であれば衣服等を脱ぎ、製品が付着した部分を流水と石けんを用いて十分に洗浄する。
 刺激等の異常が認められる場合には、医師の診察を受ける。

眼に入った場合

速やかに流水にて 15 分間以上の洗浄を行う。
 コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄を続ける。
 刺激等の異常が認められる場合には、眼科医の診察を受ける。

飲み込んだ場合

水で口腔内を洗浄する。
 多量の水を飲ませる。吐かせてはならない。
 被災者に意識のない場合には、口から何も与えてはならない。
 速やかに医師の診察を受ける。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

火災の状況に応じた消火剤を使用する。

使ってはならない消火剤

棒状注水

火災時の特有の危険有害性

不燃物であるが、加熱によって分解し、火勢を拡大させるおそれがある。
 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

消火作業は、風上から行う。
 火災時には初期消火に努める。
 周辺火災の場合であって、何ら危険性を伴わない場合には、火災延焼のない安全な場所に移動させることが望ましい。移動できない場合には、容器とその周辺に散水して冷却させる。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

必ず自給式呼吸器及び状況に応じた適切な保護具を着用し、安全な距離から消火作業を行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

適切な保護具（8. ばく露防止及び保護措置参照）を着用し、風上で作業する。
 屋内で漏洩した場合には、回収作業中と作業後に換気を行う。

環境に対する注意事項

河川等に排出されて環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ、漏れを止める。

回収後の少量の残留分は土砂又はおがくず等に吸収させる。

大量に漏洩した場合には、盛土で囲って流出拡大を防止し、可能な限り回収する。

漏洩物は元の容器には戻さず、適切な容器に回収して廃棄する。

残渣は中和した後大量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

的確な工業衛生管理に則った換気及び清掃を実施する。

安全取扱い注意

使用前に使用説明書を入手する。

取扱い時には、ばく露防止のために適切な保護具（8. ばく露防止及び保護措置参照）を着用する。

用途以外に使用しない。

接触回避

皮膚や眼との接触は避ける。

作業後には直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。

衛生対策

作業着は再使用前に洗濯する。

保管

安全な保管条件

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

他の容器に移さず、直射日光を避け乾燥した場所で密封して保管する。

極端な高温及び低温下での保管を避ける。

他の物と離して保管する。

安全な容器包装材料

国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度及び許容濃度

化学名又は一般名	管理濃度 (厚生労働省)	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
硝酸	-	2 ppm (5.2 mg/m ³)	TWA 2 ppm, STEL 4 ppm
りん酸	-	1 mg/m ³	TWA 1 mg/m ³ , STEL 3 mg/m ³

設備対策

工業衛生管理に則った換気及び清掃を実施する。

本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。

保護具

呼吸用保護具 : 必要に応じて個人用呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具 : ニトリルゴムなどの化学防護手袋

眼、顔面の保護具 : 安全ゴーグル、顔面用の保護具

皮膚及び身体の保護具 : 長袖の作業着（不浸透性のもの）

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

色

無色～淡黄色

臭い

無臭

沸点又は初留点及び沸点範囲

データなし

可燃性

データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

データなし

引火点

データなし

自然発火点

データなし

分解温度

データなし

pH

2.4 (1000 倍希釈液)、1.6 (100 倍希釈液)

動粘性率	データなし
溶解度	可溶
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	1.29
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

※ 数値は製品の代表値である。

10. 安定性及び反応性

反応性

データなし

化学的安定性

正常な状態で保管している場合は安定。

危険有害反応可能性

高温になると有害なガスが発生し、容器内圧が上昇する。また加熱によって分解し、火勢を拡大させるおそれがある。

避けるべき条件

高温

混触危険物質

酸と反応して有害または危険なガスが発生させる物質、金属粉末、カーバイド、硫化水素、テルペンチン、有機酸、可燃物、有機物あるいは容易に酸化される物質等。

危険有害な分解生成物

データなし

11. 有害性情報

急性毒性

LD₅₀ 値 (経口) : 3566 mg/kg (雄マウス)

皮膚腐食性/刺激性

pH2 以下のため、区分 1 とした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

pH2 以下のため、区分 1 とした。

呼吸器感作性

データなし

皮膚感作性

データなし

生殖細胞変異原性

Ames 試験: 陰性

発がん性

データなし

生殖毒性

区分 2 に分類される成分を 3%以上含むため、区分 2 とした。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

区分 1 (呼吸器系) に分類される成分 (硝酸、りん酸) を 10%以上含むため、区分 1 (呼吸器系) とし、

区分 1 (血液) に分類される成分を 1%以上 10%未満含むため、区分 2 (血液) とした。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

区分 1 (血液) に分類される成分および区分 1 (呼吸器系、歯) に分類される成分 (硝酸) を各々 1%以上 10% 未満含むため、区分 2 (血液、呼吸器系、歯) とした。

誤えん有害性

データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

データなし

残留性・分解性

データなし

生態蓄積性

データなし

土壌中の移動性

データなし

オゾン層への有害性
データなし

13. 廃棄上の注意

排水や河川等に廃棄してはならない。
中和した後に排水処理を行う。
知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する（地方公共団体が処理を行っている場合には、地方公共団体に委託する）。
空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に適切に処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号 : 3264
品名（国連輸送名） : その他の腐食性物質（無機物）（液体）（酸性のもの）
国連分類 : 8
容器等級 : II

応急措置指針番号 : 154

国内規制がある場合の規制情報
船舶安全法、航空法

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法
労働安全衛生法

非該当

名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号、第 2 号・別表第 9）：硝酸カリウム（2025 年 4 月 1 日以降）、307 硝酸、618 リン酸

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号・別表第 9）：硝酸カリウム（1.0~10%）（2025 年 4 月 1 日以降）、307 硝酸（10%）、618 リン酸（20~30%）

特定化学物質第 3 類物質（特定化学物質障害予防規則第 2 条第 1 項第 6 号）：硝酸

危険物・酸化性の物（施行令別表第 1 第 3 号）：硝酸カリウム
歯科健康診断対象物質（法第 66 条第 3 項、施行令第 22 条第 3 項）：硝酸

皮膚等障害化学物質等（規則第 594 条の 2 第 1 項）：リン酸

化学物質排出把握管理促進法
船舶安全法
航空法
水質汚濁防止法

非該当

腐食性物質

腐食性物質

有害物質（法第 2 条、施行令第 2 条、排水基準を定める省令第 1 条）を含む

労働基準法

疾病化学物質（法第 75 条第 2 項、施行規則第 35 条別表第 1 の 2 第 4 号 1）を含む

16. その他の情報

参考

O A T アグリオ株式会社保有データ

MSDSnavi（日本ケミカルデータベース株式会社、2024）

NITE-CHRIP (https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/systemTop)

連絡先

製品に関する問い合わせ先：コールセンター0120-210-928

中毒に関する緊急問い合わせ先：公益財団法人 日本中毒情報センター

中毒 110 番	一般市民専用電話 (情報提供料：無料)	医療機関専用有料電話 (情報提供料：1 件 2000 円)
大阪 (365 日、24 時間対応)	072-727-2499	072-726-9923
つくば (365 日、24 時間対応)	029-852-9999	029-851-9999

責任の限定について

安全データシートは、化学製品を安全に取扱うための参考情報として、当該製品を取扱う事業者を提供されるものであって、安全を保証するものではありません。ここに記載された数値は、規格値や品質を保証する数値ではありません。

この安全データシートは、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、当該製品に関する全ての情報が網羅されているわけではありません。記載内容は当該製品の一般的な取扱いについて記載したものです。

当該製品を取扱う事業者は、個々の取扱い等の実状に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、この安全データシートを活用されるようお願いいたします。